

3 Rafflesiaceae. Our plant belonging to this family is *Mitrastemon Yamamotoi* and Dr. Erdtman pointed out the fact that the grain is 2-3 poroid and essentially the same as *Cytinus hypocistis* although larger but observation basing upon raw material proves to be (2)-3-4-poroid ( $19-20 \times 26-29.5 \mu$ ).

4. Balanophoraceae. Grains of this family are reported to be 3-4-(5)-colpoid but that of *Balaneikon tobiracola* Setchell (*Balanophora tobiracola* Makino) is apparently nonaperturate (Fig. 1 E).

5. Polygonaceae. Generally speaking *Persicaria* is known to have polyporate grain, but in *P. nepalensis* [sect. *Didymocephalon* (Meissn.) Nakai] it is 3-colporate and in this species and in *P. umbellata* [sect. *Corymbocephalon* (Meissn.) Nakai] the sexine pattern is reticulate (reticulum  $4-10 \mu$ ) and this nearly corresponds Dr. Wodehouse's observation of *Polygonum chinense* (*Persicaria chinensis* Nakai) in his Pollen Grains: 405 (1935), while in other genera having 3-colporate grain the sexine pattern is fine or subreticulate, the reticulum being less than  $3 \mu$  in diam.

6. Cynocrambeae. Our *Cynocrambe japonica* (or *Thelygonum japonicum*) is already registered by Dr. Erdtman, but if not mistaken, the survey result is  $28-29.5 \times 29.5-31 \mu$ .

Podostemonaceae is purposely omitted from the table as it was unable to obtain satisfactory material.

### ○ヤワタソウ属 (原寛) Hiroshi HARA: On *Peltoboykinia*

1937年日本産ユキノシタ科を調べた時に、ヤワタソウとアラシグサを *Boykinia* からわけてそれぞれ新属として記載した。その後米国で豊富な資料をみた結果、アラシグサの方はやはり *Boykinia* 属中にいれて扱うのがよいとの見解に達し本誌 17: 26 (1941) にそのことを附記したが、ヤワタソウの方は外部形態的性質がかなり異なるので独立の属 (*Peltoboykinia* Hara) として認めてよいと考えていた。最近 J. L. Hamel 氏は核学的性質からこの属の独立性を認め第 8 回国際植物学会議 (1954) で発表した。

この属はヤワタソウとワタナベソウの二つを含んでいるがこの 2者は非常に近くむしろ単型属と考える方がよと思う。ワタナベソウはヤワタソウに比し、葉が深く 9-13 中裂しているので容易に区別でき、又その分布区域は四国九州の深山に限られているが他の性質では殆ど一致する。それで私はワタナベソウをヤワタソウの地方変種として次の様に扱いたい。なお九州にはウスバノミツバシヨウマ、モミジハグマ、モミジタマブキ、モミジバセンダイソウ、モミジウリノキなど葉の深く裂ける地方変種が多いことを考え合せると興味が深い。

*Peltoboykinia tellimoides* (Maxim.) Hara var. **Watanabei** (Yatabe) Hara, comb. nov.

*Saxifraga Watanabei* Yatabe in Bot. Mag. Tokyo 6: 7 & 43, t. 2 (1892). *S. tellimoides* var. *Watanabei* (Yatabe) Makino in Bot. Mag. Tokyo 15: 12 (1901). *Peltoboykinia Watanabei* (Yatabe) Hara in Bot. Mag. Tokyo 51: 252 (1937); in Nova Fl. Jap. 3: 78 (1939)—Ohwi, Fl. Jap. 601 (1953).

○伊豫のおホマキエハギ (得居 修) Osamu TOKUI: *Lespedeza macrovirgata* newly found in Shikoku.

おホマキエハギは北川博士が旅順から、一見オホバメドハギとマキエハギの雑種?らしきマキエハギに近い一品を新種として記載 [B. M. T. 48: 100 (1934)]され、後朝鮮でも採集されマキエハギの変種に下されたものである。大井博士の日本植物誌 679, (1953)]によれば丹波産の記載がある。私は自宅近くの愛媛県温泉郡北条町神田の立岩川の堤防上で昨夏の初めに採集し、その後花が咲き蒴が出来る様子をしばらく観察することが出来た。まだ四国からの報告はないようであるから記録しておく。周囲にはイヌハギとマキエハギが沢山混生していて、それらの中におホマキエハギが四株あつた。

次にこのものは原記載にも指摘されている通りマキエハギに最も近い、けれども丹波や四国にも現われるからにはオホバメドハギとの雑種ではないことは事実であるが、外見を見るとどうしても雑種系統のものと思われる。(特に各々の大きさ、全体に斜上する毛が多い等)。これについては私の見たイヌハギとマキエハギの雑種とみるべきが妥当と思われる。それならイヌハギは広く朝鮮、満州にもあるから問題は残らないことになる。

そこでやはり最初のように、マキエハギとは別種として分つ方が良いと思う。その理由として次に差異点を示すと、

A. 莖は硬くやや太い、高さ 60~120 cm, 基部を除き淡緑色、全体特に中部以上に斜上(稀に開出)する褐色状の疎剛毛を密生する、葉は大きく長さ 5~37 mm, 巾 2~22 mm, 葉裏斜開出長毛を密布する、長葉柄は短毛、短葉柄は褐色絨毛あり、托葉は長さ 2~7 mm, 有毛、花梗は決して細毛状とならない、有毛、有弁花は 7~8 mm, 蒴は密は剛毛あり、閉鎖花は腋生及び小枝の先に頂生、集簇する……………おホマキエハギ

AA. 莖は細く高さ 30~60 cm, 全体帯紫色、殆んど無毛、上部僅かに伏臥毛あり、葉は通常長さ 20 mm 巾 10 mm まで、葉裏伏臥短毛を散生する、葉柄は少しく毛あり又は無毛、托葉は長さ 2~4 mm, 無毛、花梗は細毛状、無毛、有弁花は 4~5 mm, 蒴は無毛又は僅かに有毛、閉鎖花は葉腋にのみ腋生集簇する……………マキエハギ

序でに結実状態は閉鎖花も真正花も共に、僅かのみ実を結ぶ。(松山農科大学)